

◆ 倉橋賞受賞

幼児のはさみ使用の観察

秀
森
潤
子



私たちが幼児のはさみ使用について考えてみようと思いたったのは、保育歴二年を迎えた四歳児に、四月末子ども用はさみで色紙を切らせたところ、切れない子が数名いました。同時に色紙より厚い絵本を切らせたら、この方は形を切り抜くことができました。このことから初期のはさみの使用には、はさみの形や紙の厚さなど年齢発達に合わせた素材を与え、正しい使用法を指導することが必要であると考え問題点をみつけるために調査をしました。

調査期間は四十五年四月～四十六年三月まで、対象は三重県大王町の保育所、托児所、家庭にある子どもでその年齢区分は表1に示した通りです。

表1 対象児

	保育所	托児所	家庭	計
2歳	13人	2人	9人	24人
3歳	57	3	9	69
4歳	48	5	0	53
5歳	0	4	0	4
計	118	14	18	150

調査方法

- 1 家庭におけるはさみの使用状況を調査する。
- 2 指導を受けている保育所、托児所児の調査をする。
- 3 特別指導を受けていない家庭児を面接により記録する。
- 4 三歳児で、入園後初めてはさみを使用し

た時の記録。

以上四通りの方法で研究を進めました。

使用材料 画用紙、色紙、上質半紙、と次の三種のはさみを
使用しました。(図1)

家庭におけるはさみ使用の状況は、表2にあげた保育所児は
アンケートにより、家庭児は面接によって調査しました。三歳
児ではすでに80%近くが家庭ではさみを使用しており、はさみ
の種類は保育所児は子ども用洋ばさみを使用しております。家
庭にある子ども三歳ごろから子ども用はさみを買って与えられて
いるものが77%でありましたが、同時にほかの形のものも使用し

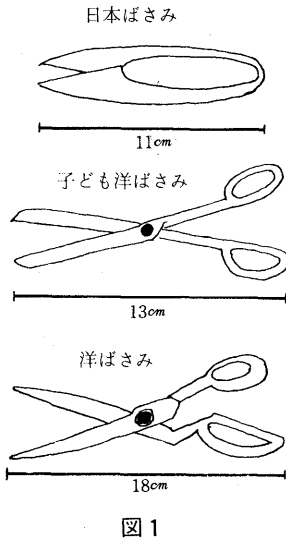


表2. 家庭におけるはさみ使用状況

	保 育 所			家 庭 児	
	2 歳	3 歳	4 歳	2 歳	3 歳
たびたび使用	18%	23%	18%	11%	55%
時々使用	45	60	75	77	22
使わない	36	12	6.2	11	22
材料与える	72	75	79	100	100
薄紙 (半紙)	81	81	83	100	100
厚い紙	9	20	41		22
日本ばさみ	36	37	22	11	11
洋ばさみ	18	10	20	0	0
子ども用洋ばさみ	45	50	79	55	77
形混合				33	90

ていました。

入園初期のはさみ使用の観察

三歳児二十八名（男児十二名、女児十六名）が初めて一斉保育ではさみを使用した六月九日と六月三十日の観察記録を表3、表4、にあげた。

表3は、使用材料上質半紙に5cm間隔、長さ15cmの直線五本と三角、四角、丸の図形を印刷したものを、子ども用はさみ

表3 入園初期の自由使用時の観察 6/9

線上を切る	21%	手甲上向	12%
だいたい切る	7.1	手甲下向	
細切り	57	正常	35
不能	7.1	反対持	10
意志なし	7.1	左手	10

表4 第2回観察 6/30

直線上を切る	100%
○△□を切る	17
△□を切る	17
○のみ切る	10
形が切れない	57

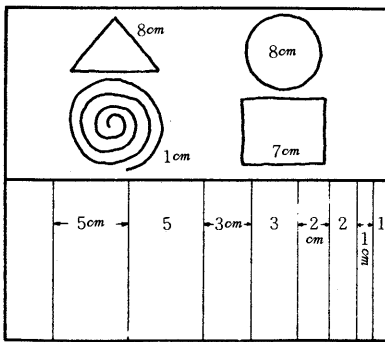


図2

三歳児の初期使用の観察で、不能の原因がある程度つかむことができたが、さらに調査年齢を広げてみました。使用材料は画用紙と上質半紙各一枚に、図2に示すごとく図形と直線を印刷したもの

で切る、これを観察記録しました。所要時間は十分～四十分。第一回では図形は全員が切れなかった。第一回の観察後、一斉に四十分ずつ三日間指導し、その後自由に切らせ、二十日過ぎた後第二回を六月三十日に観察したものが表4の結果となりました。第一回の調査時は大体切れる者も含めて28%であったものが、二十日後の第二回目では直線を切る者が100%になり、図形を切れた者も43%と前進しています。

この観察結果から、不能の原因が(イ) はさみの持ち方 (ロ) 指の入れ方 (ハ) 紙の持ち方 (ニ) 紙の質等に関係があることがわかりました。

第一回実態調査

表5 第1回調査結果(切れ方の良否)

切れ方	年齢				年齢		
	2歳	3歳	4歳		2歳	3歳	4歳
厚紙が切れた	53%	85%	100%	△が切れた	38%	75%	100%
薄紙が切れた	38	60	97	□ 〃	54	85	100
線上が切れた	0	20	87	○ 〃	46	50	98
線からそれる	100	75	12	◎ 〃	30	40	95
1 cm間隔	15	30	91	不 能	46	3.5	0
2 cm間隔	38	30	95	意図理解不能	46	12	0
3 cm間隔	23	45	95	意志なし	46	1.7	0
5 cm間隔	38	75	100	使用時間	47分	33分	26分
左きき	15	0	0	持ち方不良	7.6	0	0

表6 第1回はさみと紙の使用状況(10月)

持ち方	年齢			持ち方	年齢		
	人員	2歳	3歳		人員	2歳	3歳
手甲上向	13人	57	49	左端を持ち右から切る	13人	57	49
手甲下向	7.6%	5.2%	2%		0	7	12
正常親指上	0	7	0	なかほどを持ち右から切る	7.6	58	38
指1本入れ	70	82	98				
指2本入れ	0	8.7	12	左端を持ち左手そばから切る	23	28	53
指3本入れ	30	54	77				
指4本入れ	7.6	22	6				
	7.6	3.5	2				

を子ども用はさみで切り、はさみおよび紙の持ち方、使用の際、切れ方の良否、使用時間などを調べた。その結果は表5と表6にあげました。

ここでは年齢や手の分化に合った紙の厚さ、切る間隔、図形を切る時の形による難易などをみました。各年齢とも、初期は厚い紙の方が薄紙よりも切りやすいことがわかる。直線を切ることは三歳児で20%、四歳児が87%になり、四歳児から狭い間隔を切ることも可能になっています。うず巻や丸を切った結果が悪いことから、図形では曲線を切ることがむずかしいことが

表7 第2回調査結果 (子ども用はさみ)

調査項目		年 齢			2 歳 児			3 歳 児			4 歳	5 歳
		保育所		托児所	家庭	保育所		托児所	家庭	托児所		
		12人	2人	9人	43人	3人	9人	5人	4人			
持 ち 方	手甲上向	0	0	11%	2.3%	0	22%	0	0			
	手甲下向	8	0	0	0	0	11	0	0			
	正 常	91	100	88	97	100	66	100	100			
	持ち方不良	0	0	55	2.3	0	44	20	25			
指 を 入 れ る 数	1 本 入	0	0	11	2.3	33	0	22	50			
	2 本 入	58	50	77	72	33	77	33	50			
	3 本 入	25	50	11	25	33	22	0	0			
	4 本 入	16	0	0	0	0	0	0	0			
左端を持ち 右から切る	厚	58	0	44	58	33	33	100	0			
	薄	0	50	33	23	50	0	60	50			
中ほどを持ち 右から切る	厚	25	100	33	32	50	33	0	100			
	薄	75	50	44	46	50	77	20	50			
左端を持ち 左手そばから切る	厚	16	0	22	0	15	33	0	0			
	薄	25	0	22	4.6	0	22	20	0			
かみ合わせ不良		0	0	0	0	0	33	0	0			
理解不能		0	0	11	2.3	0	0	0	0			
時 間		28分	26分	26.4分	23分	18分	18分	16分	17分			

わかります。

二歳児の半数は、間隔や形にそって切るという意味理解ができていません。表6ははさみと紙の持ち方を調査したものです。調査期が十月であるため、それまでに指導を受けているので二歳児でも正常な持ち方をするものが70%になりました。

第二回調査

第一回の調査後四カ月をへて、三月に第二回の調査をしました。今回は保育所児のほかに托児所と家庭にある子どもも加えた。使用材料は画用紙と色紙に図形および直線を印刷したものを、日本ばさみ、子どもば

表8 各種のはさみによる切り方の良否

		2 歳				3 歳				4歳	5歳
		保育所	托児所	家庭	平均	保育所	托児所	家庭	平均	托児所	
日本ばさみ	厚紙	63%	100%	58%	73%	82%	100%	73%	85%	93%	100%
	薄紙	66	100	62	76	87	100	92	93	100	100
洋ばさみ	厚紙	72	100	62	78	88	100	88	92	100	100
	薄紙	69	50	66	61	94	88	76	86	100	100
子どもばさみ	厚紙	85	83	40	69	90	100	84	91	100	100
	薄紙	72	66	58	65	91	100	88	93	100	100
子どもばさみ	△	58	100	44	67	78	100	77	85	100	75
	□	83	100	44	75	72	100	88	86	100	100
	○	50	100	0	50	67	100	64	77	100	100
	◎	0	0	0	0	55	33	70	52	100	75

さみ、洋ばさみで切ったもので、はさみの種類により色紙の色を違えて混同を避けるようにしました。

表7は第一回と比較するために子どもばさみの結果をあげました。第一回に比べ正常な持ち方がまし、指も二本入れが増加している。紙の持ち方は紙質により違いがあり、厚い紙は左端を持って右端から切り、薄い紙はなかほどを持って、右端または持ったそばから切っています。

はさみによる比較

表8では三種のはさみによる切り方の良否をみたもので、これは1cm 2cm 3cm 5cmの間隔の直線を切ったものの平均を出しています。保育所児は、平常子ども用はさみを使用しているのでその方の結果が良かったが、他は形による特色がみられなかった。

表9ははさみの種類によって使用法の

ばさみ		西洋ばさみ				子どもばさみ			
4歳	5歳	2歳	3歳	4歳	5歳	2歳	3歳	4歳	5歳
100%	100%	96%	91%	80%	75%	93%	87%	80%	75%
0	0	3.7	8.1	20	25	18	15	20	25
0	0	10	16	0	0	18	11	0	0
96	100	69	89	100	100	67	89	100	100

良否があるかどうかをみたものです。西洋ばさみ、子どもばさみで、托児所四、五歳児が、二、三歳児よりも持ち方不良が増しているが、これはテスト人員が少ないため、極端に出たものと思われまます。

結果の考察

1 家庭でも早くからはさみを自由に使用させているが、使用開始の年齢は、保育所二歳児の十月の調査で、線上や図形を切る時、意図理解不能や、かみ合わせ不良がともに46%あり、家庭調査でははさみによるけがが18%ありました。これらから考えると、二歳児は楽しんで使用するが、道具として使用するのは三歳児からだと思う。

2 正しい持ち方、すなわち手申横向き、親指上位の持ち方と、切り方良否が正比例する。正常な持ち方35%の時には、線上を切れる者が21%であったものが、正しい持ち方が82%になると線上を切れる者が75%になっています。このことよりみて、正しい持ち方の指導が必要なのがわかります。持ち方指導は短期間で正常になります。

3 指の使用は初期は指穴へ二本入れると、指が細いため指のつけ根まではいり、刃先が開かなくなるから、初めは三本または四本入れを指導します。かみ合わせのコツを覚えると、自然に二本入れるようになります。

4 はさみと紙の厚さの関係は、日本ばさみは力を必要とし、二歳児では左手をさえ、上から押して切る子が多く、薄紙の方が切りやすい。洋ばさみは厚

表9 はさみの種類による使用法の良否

使用法		種類	
		2歳	3歳
持ち方	正常	93%	85%
	不良	47	20
	かみ合せ	10	57
切り方良		74	89

手の紙の方がよい結果を示した。三歳児の初期使用は、薄紙の場合、かみ合わせ不良で切れないが、厚紙を先に切らせるとそのあとすぐ薄紙も切れるようになりやすい。ゆえに紙は厚手のものから先にはいるとよい。

5 紙の持ち方は、初めは縦横上下などの持ち方と、横切、下向き切などあるが、指導後かみ合わせのコツを知ると、紙を水平におき手前から縦切りにするようになりやすい。紙の持ち方は、薄紙は切るそばかまたはなかほどを持ち、厚紙は左端を持って右端から切ります。

6 幼児に向くはさみの種類と切れ味は、どのはさみも調査結果は大差がなかったが、保育所托児所とも、日常子どもばさみを各個に所持し自由に使っています。日本ばさみ、洋ばさみは調査の時にのみ使用したにかかわらず、大差がみられなかったし、子どもは洋ばさみの方を好んで使いました。このこと

は、洋ばさみの方が子どもの使用に向くのではないのでしょうか。持ち方の良否は、洋ばさみが指穴に指を四本入れるので、自然に正常な持ち方になります。

7 直線を切る時、洋ばさみは一度に刃わたり3〜4 cm進むので線上からそれないが、曲線を切る時は子ども用はさみがよい。日本ばさみは力はいり過ぎて線からそれやすく、切口にギザギザがでやすい。以上総合すると、三歳児より洋ばさみを使用し厚い紙で切り方を覚えるのがよいと思います。

(共同研究者 伊藤ひさ枝 小川みつ子 天白幸子)